

# 動画視聴を取り入れた文型・文法の定着

## —iGen 世代の学生の教授法—

豊田 晶子

科目名：会話 1

レベル：初級 1・2 / 中級 3・4・5 / 上級 6・7・8

履修者数：16名

### 1. 動画視聴に慣れ親しんだ iGen 世代の学生に対応した授業

1995年から2012年頃の間生まれた世代は iGen (i ジェネレーション) と呼ばれている。この世代は幼いころからスマートフォンが常に生活の一部として身近にあった世代である。例えば、病院や駅の待合室では親に絵本を読んで貰うのではなく、1人でスマートフォンを手に取り、動画を見て育った世代である。本稿ではスマートフォンによる動画視聴に慣れ親しんできた iGen 世代の学生がより楽しく、自然に文型・文法が身に付けられるよう、新たな試みとして NHK の教育動画を会話 1 の授業で用いた。その取り組みと会話 1 の授業における文法の位置づけについて紹介する。

### 2. 実践の方法

「会話 1」は早稲田大学日本語教育センター（以下、CJL）の4技能を総合的に学習する総合科目群に含まれるリアルタイム配信の技能科目である。話すことが苦手な学生は話すことに特化した初級の「会話 1」を選択し、日常生活場面での会話力をつけることで、14回の授業が終わると苦手意識が薄らぎ、「もっと日本語を話したい」と前向きになる。会話 1 では、100分授業の最初の3分間を動画視聴にあてた。これにより、iGen 世代の学生が楽しく初級の文型・文法・ことばを使って日常に役立つ会話を練習でき、総合日本語 1・2 で学んだ文法の定着と文型を使った会話の上達を目標とすることが可能になると考えた。使用した動画は、『Easy Japanese Learn Japanese | NHK WORLD-JAPAN』である。

会話 1 で用いる CJL のテキストは Lesson 1 から Lesson 11 まで 11 の Lesson で構成されており、それぞれの Lesson では初級文型・文法を使って会話のパターンを4つ前後学習する。まず、従来の授業の流れは、最初のウォーミングアップで学生にその日に学ぶ文型を含む簡単な質問をし、授業の学習目標を明らかにする。続いて、授業担当者と学生で実際に文型を使った会話を練習する。そして、ブレイクアウトルームで学生同士が習得した会話の文型を使った練習をするというものであった。

これに対し、担当者の授業では、授業開始と同時に動画を短時間視聴することが授業の導入部分となり、会話の授業で学習する文型をより理解することができると考えた。新たな試みとしてテキストの学習に入る前に、その週に学習する文型・文法に沿った NHK の

やさしい日本語の動画を視聴させた。動画の流れはアニメ→習得する文型・文法の説明→文型を会話で使った実際の登場人物による動画→発音練習である。実践方法は100分授業のうち6分を担当者の活動とし、①学生に3分の動画を視聴させ、②次の3分で、動画で初めて習ったことばと視聴した会話の文型を学生に発表してもらった。15名前後のクラスで、半数の学生が発表した。そして、テキストの学習を始めた。

具体例として、実際にCJLのテキストLesson 10で実施した実践活動を紹介する。Lesson 10の授業内容は、I can talk my experience（経験を話すことができる）であり、動画のLesson内容もSaying what you've doneである。習得する会話の文型は「～にいきました」である。NHKの動画は、①アニメ視聴の後、②ます形から過去形の作り方を説明し、③最後に実際の登場人物による動画で文型を使った会話を実践している。3分間の動画の中で使った文型は「聴きに行きました・見に行きました・食べに行きました・遊びに行きました」である。Lesson 10で使われている文型は「よこはまであそびました・しゃしんをとりました・よこはまにいきました・ちゅうかがいにいきました」である。担当者は動画の視聴を2021年度春学期から導入した。授業開始と同時にテキストの学習に入るよりも、動画を3分間視聴することで、従来型の授業より、テキストで学習する会話の文型の使い方がより理解できると考えている。ブレイクアウトルームで学生同士の会話練習がより増え、学習者の自信につながった。学生同士の会話が活発になることで、学期開始時よりもブレイクアウトルームの人数を減らし、学生一人当たりの話す時間を増やすことができた。

会話1の授業では、2023年度の春学期から「わたしのことば」として、学生が「印象に残っていることば」「生活するうえで重要だと思ったことば」を1人1つずつ、チャットやパドレットで共有する活動が新たに加わった。担当者の授業では、2023年度春学期から毎回授業の最後に約10分間パドレットを使い、本日の授業のまとめとして本実践をした。学生は動画視聴で覚えたことばや会話で使った文型・文法など、1人1つで収まることはなく、3つ以上書く学生もいた。また、文型と例文の両方を書く学生も多かった。ここでも、授業開始時に実践した3分間の動画視聴の効果を確認できた。

### 3. 実践の成果と今後の課題

本実践活動では、iGen世代の学生が幼いころからスマホが生活の一部として身近にあったことに着目し、短時間の動画視聴を授業に取り入れた。結果的に、会話1の目標である「もっと日本語を話したい」を達成することができた。近年、NHK以外からも様々な日本語教育に関する動画が公開されており、今後はこうした動画も活用することにより、文型・文法に則ったより実践的な会話の実力をつける授業を模索していきたい。

#### 参考文献

NHK WORLD-JAPAN NEW やさしい日本語 Easy Japanese Conversation lessons

<Lesson 29 I went to listen to a piano recital. | Easy Japanese | NHK WORLD-JAPAN>

(とよだ あきこ, 早稲田大学日本語教育研究センター)